

知っておきたい お中元の基礎知識

お中元選びに迷っている人も多いのでは。

日頃お世話になっている方へ、喜ばれる贈り物をしたいですね。

ビジネスマナーに詳しい「ステージ・アップ」代表の長野淳子さんに、お中元のマナーや選び方を聞きました。



ステージ・アップ代表
長野 淳子さん

テレビ・ラジオ番組やCMナレーション、リポーターをはじめ、結婚披露宴や講演会、演奏会など3,000件以上の司会を担当。演劇公演の役者や朗読家としても高い評価を受ける。2001年、ステージ・アップを設立。代表として後進の育成にあたるほか、教育現場や企業などの講演会・研修会・セミナーなどの講師を務める。さらに、カルチャーセンターの講座において司会、朗読、話し方、ビジネスマナーなども指導する。

〈お中元の由来と送る時期〉

日頃お世話になっていらっしゃる方に、半年間の感謝と「これからもよろしく願います」という気持ちを込めて贈るお中元。もともとは、中国の道教の祭儀「上元・中元・下元」に由来するもので、このうち7月15日の「中元」が、日本の「お盆」の先祖供養の風習と結びついたと言われています。

お中元は、7月初めから15日までに贈るのが一般的ですが、お盆を月遅れで行う地域もあるので、「基本的には相手方に合わせる」といいでしょう」と長野さんは話します。時期を逃がしてしまつたら「暑中御伺」として、8月上旬の立秋までに、それ以降は「残暑御伺」として、9月上旬までに贈れば失礼にあたりません。

〈心に届く品選び〉

品選びは、「季節感」と「相手の好み」がキーワード。季節ならではの「食料品」や、上質な「日用品」などの、定番品を始め、最近では「産地直送品」なども人気とか。「前もって先様の好みや家族構成を調べておいたり、しやれた品揃えの店をリサーチしておくといいですね」と長野さん。趣味や生活スタイルに合った気の利いた品ならより相手の心に届きます。また毎年同じ品を贈るのも案外喜ばれるとのこと。

金額は、3千円〜1万円くらいが目安。相手にあまり気を遣わせないように、お付き合いに応じた金額の品を選びましょう。

〈「贈り上手」は気配りから〉

マナーと気配りは「贈り上手」の第一歩。贈る品が決まったら、品物より先に着くように、手書きのハガキや手紙で、贈った旨を伝えましょう。先様に丁寧な印象を与えると同時に、こちらの近況も伝えられ届くまでの「楽しみ」も感じてもらえます。

生鮮食料品を贈る時は、前もって先様の都合を尋ね在宅する時間帯に届くように配慮を。品物が届いたかどうか気になる時は、発送元や配達業者に問い合わせましょう。

〈喜ぶ顔を思い浮かべて〉

この時期、店頭やカタログでお中元商品を紹介する店も増えます。趣向を凝らした魅力的な商品の数々は、眺めるだけで楽しく、「あの方が喜んでくれそう」と、ワクワクした気持ちになれるもの。

近年は、定番の「食料品」だけでなく、オシャレな小物や、雑貨などを贈るケースも増えていて、お中元の内容も広がっているそう。

「最近話題になった品や、生まれ故郷の特産物など、会話がふくらむ贈り物も楽しいですね」と長野さん。自分らしさやセンスを発揮して、先様の喜ぶ顔を思い浮かべながら、お中元選びを楽しんでみませんか？